



# Close up だて



## — 鮮やかさはおいしさのバロメーター — 伊達産野菜を召し上がれ—

あらいしずか  
**荒井 静**さん  
 (舟岡町)



荒井さんのハウスでたわわに実るトマト



伊達市にはおいしい野菜がたくさんあります

**「野菜のまち」という顔を持つ伊達市は、多種類の野菜が育つのに必要な豊かな土壌と暖かな気温に恵まれたまちです。**  
 最近では、「道の駅」などでも多くの野菜が販売されていて、地元の新鮮な野菜を手軽に手に入れる機会が増えました。消費者の目も肥えてきているので、生産者には高い品質の野菜が求められています。

そんな中、昭和50年代後半から市内でトマトを作っている荒井静さん。消費者に喜ばれるトマトをと、熱心に育ててきました。

「温泉を利用した農業を始めたか」と、市役所から声をかけられて始めた。温泉を利用していることで温度管理は助かるが、湿度が高いと病気になることがある。その調整が難しい。天気は微妙だから」と、ていねいに話してくれました。

「伊達は野菜が何でもとれる恵まれた土地。その分これといった目玉がないかもしれないが、多くの農家はこれと思った野菜作りを頑張っている。私の作っているトマトも、気温差があることで甘みや味が濃いといわれるのがうれしくて、それも励みになっている」と、消費者の声が野菜を育てる原動力だとも話します。

「30年以上トマト作りを続けてきた。伊達産ならではの品質を維持した上で、ほかの品種を作るチャレンジもしていきたいと思う。トマトの赤い色素「リコピン」は、生活習慣病予防や老化抑制作用のほか、美白・美肌効果があります。これから暑くなる夏を乗り切るためにも、地元産の栄養たっぷりの野菜を召し上がってみてはいかがでしょうか。」

### 表紙のはなし



6月のある晴れた日、弄月町のトマトを栽培しているビニールハウスを訪ねました。背高く天井に向かってのびたツルには、真っ赤に色づいたものやこれから色づくものなど、たくさんのトマトが実っています。生で食べるのはもちろん、火を通すとより甘みが増し料理にもぴったりな野菜です。

### 楽画記

- 今年、夏は来るのか。夏は得意ではないものこのこまであまりな曇り気はどうにも落ち着きません。何よりビールが美味しくないのです。また、涼しいからといって、冷静さが増すわけでもなく、何だか色々と宙ぶらりんな今年の夏、スパッと気持ちよく過ごすための工夫を探さなければなりません。(と)
- 5月の末頃から気温が上がり、夏がきた!と思っていたら、6月は雨の日が多く、肌寒い日が続きました。夏といえば、パーベキューに海水浴。早くやりたい!という気持ちとは裏腹に、天気はなかなか思うようにはいかないものです。今年の夏は冷夏との予報ですが、暑くなるのを期待しています。(た)
- 感情をコントロールするためのトレーニング「6秒ルール」をご存知ですか?怒りのピークは6秒なのでその間は何もしないで黙っている、そうすることで冷静さを取り戻せるということです。怒りやすい私でも冷静になれるのか。逆にその6秒で怒りを増大させてしまうかも?(や)